

【原爆先生の特別授業とは？】

NPO法人原爆先生(以下、当NPO)は、ヒロシマの被爆物語と原子爆弾の解説を行う活動として「原爆先生の特別授業」(以下、特別授業)を2008年から実施しています。特別授業は、学校が外部から講師を招聘して行なう正規授業で、都内の小学校で六年生を対象に2校時90分を使用して実施しています。

詳細は当NPOのホームページ(最下部記載)をご参照ください。



【特別授業の実績】学校間の口コミで増加

2017年までの累計 **962校**

2008~ 2009年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
13	21	42	74	108	129	178	182	215

次の3表を添付しています。ご参考をお願いします。

毎年の実施日を永久固定化した学校

P2 実施校一覧(2017年度)

P3 区市町別実施分析表

P4 実施日固定校 140校

【必要性】興味を育む「きっかけ」をつくる



戦争・原爆・道徳等には無限の答えがあるゆえに、教える・理解させるという一般的な手法は児童への押し付けに結び付きます。

特別授業では、原爆という非日常の場面に児童を臨場させ、壮絶な出来事を心で体感させる手法を講じています。体感が児童に興味を育み、もっと知りたいという勉学のきっかけをつくります。

【特殊性】体感させ、興味を育み、勉学意欲をつくる、これが特別授業の目的

まず、児童に聞く姿勢をつくる

一般の講演会は話を聞きたい人が参加します。だから参加者のほとんどが聞く姿勢を持っています。反して特別授業は、開始冒頭で児童全員に聞く姿勢をつくる必要があります。

考える、ではなく体感させる

映画やTVは視覚情報によって全員が同じ映像を見えています。特別授業は児童の目で行う聴覚授業です。児童は聴覚情報だけで無意識に考え、心で映像を描き、百人百様に体感します。

面白いが興味を育む

90分以上の長時間、児童全員を授業に引き付けるのは「面白い授業」が大事なキーワードです。ハラハラ・ドキドキ、次に何が起こるか？ この「面白さ」が児童に興味を育みます。

講師に要求される技術

特別授業は、児童だけでなく教師や保護者をも引き付ける高度なプロ技術を追求しています。

視覚体感と聴覚体感

- 視覚体感・・・アトラクションやCG、VR、映画、TVドラマ
- 聴覚体感・・・特別授業

児童を引き付けるコンテンツ

- 授業は次の2点で構成されます。
- ①主人公の活躍物語 45分
 - ②原爆の知識を知る 45分

【参考】長崎の被爆者に特別授業を実施しました

2018年2月、長崎原爆資料館から依頼を受け、被爆者・語り部・伝承者等の約100名に特別授業を実施して評価を得ました。

同館の主旨は・・・他県での講和や学校での授業に備えた手法の構築

特別授業は長崎の伝承事業の参考にされました

